

# 危機意識をもって供給力強化を

カラマツの(株)サトウ 代表取締役社長 秋元紀幸



これからの国産材製材工場は良くなる要素が増えてきていると思っています。人口が70億人を突破し、世界の木材需要が増える一方、ゲリラ豪雨や水害など天候異変の増加で森林資源を温存する動きが出てくるので世界の原木供給量（伐採量）は減り、需給関係の逼迫により、世界の木材価格は高くなっていくと思いますし、すでにその兆候が出てきています。現在、日本が木材を輸入できるのは歴史的な為替問題で木材価格の高騰が隠れているからに過ぎません。金融市場が落ち着けば、木材輸入環境は一気に悪くなり、国産材業界に追い風となります。

国産材については、平成23年度は原木価格が安定していましたが悪くはありませんでしたが、平成24年は更に良くなると思っています。需要についても、震災の復興需要が徐々に増えてくるでしょうし、補正予算の効果も出てきます。木材利用促進法の効果も出てくるでしょう。

これらに対応すべく、引き続き、商品価値の向上、設備投資、原木調達の安定化を進めます。商品価値の向上については、住宅部材の拡充を図ります。具体的には内装材やフローリング等の2次加工が必要な商品を増やします。現在そのための調査・検討を進めています。販売先については、本州の大手需要者を主に考えていますが、数年後には海外に輸出することも視野に入れていきます。

また、森林認証の取得やカーボンフットプリントの印字など、環境問題への配慮と、お客様に安全・安心

な商品を選んでいただくための「見える化」の取り組みも検討しています。

設備投資については、鋸の腰入れ機を更新します。製材工場の経営を左右するのは鋸の出来ですので、すでに当社で使う鋸の目立ては全て自社で行っていますが、より高い品質の鋸を作るため、最先端の腰入れ機をドイツから調達します。鋸の出来が良くなることによって、歩留まり向上や時間当たり生産量の改善、挽き肌の平滑化が見込めます。

また、自家発電機を導入します。現在、乾燥機の熱源は、副産物であるバーク等のバイオマス資源で賄っていますが、バイオマスボイラーの蒸気発生量に余力があるので、蒸気タービン発電機を設置します。乾燥機で使用する電力については自家発電で賄える見込みで、年間経費の20%程度のコスト削減ができると試算しています。

原料調達の安定化については、社有林の取得を進めます。数千haの取得を目指しています。木材価格の低迷により森林所有者や林業者の経営意欲が減退していますが、山林から販売まで一貫して取り組むことで、中間コストの削減と経営の安定化の結果、林業経営の問題を克服できると考えています。

国産材自給率50%の達成に向けて社会の期待に応えることが出来るのか、社会のグローバル化が進む中で生き残るためには何をしなければならないのか、時代の変化にフレキシブルに対応し、危機意識を持って取り組まなければならないと考えています。

国内最大級の国産材製材工場。カラマツによる梱包材・パレット材の製材を主力に、集成材ラミナ、一般製材、土木資材、エクステリア、内装材など多様な商品展開を行っている。帯広市。

<http://www.karamatu-satou.com/>